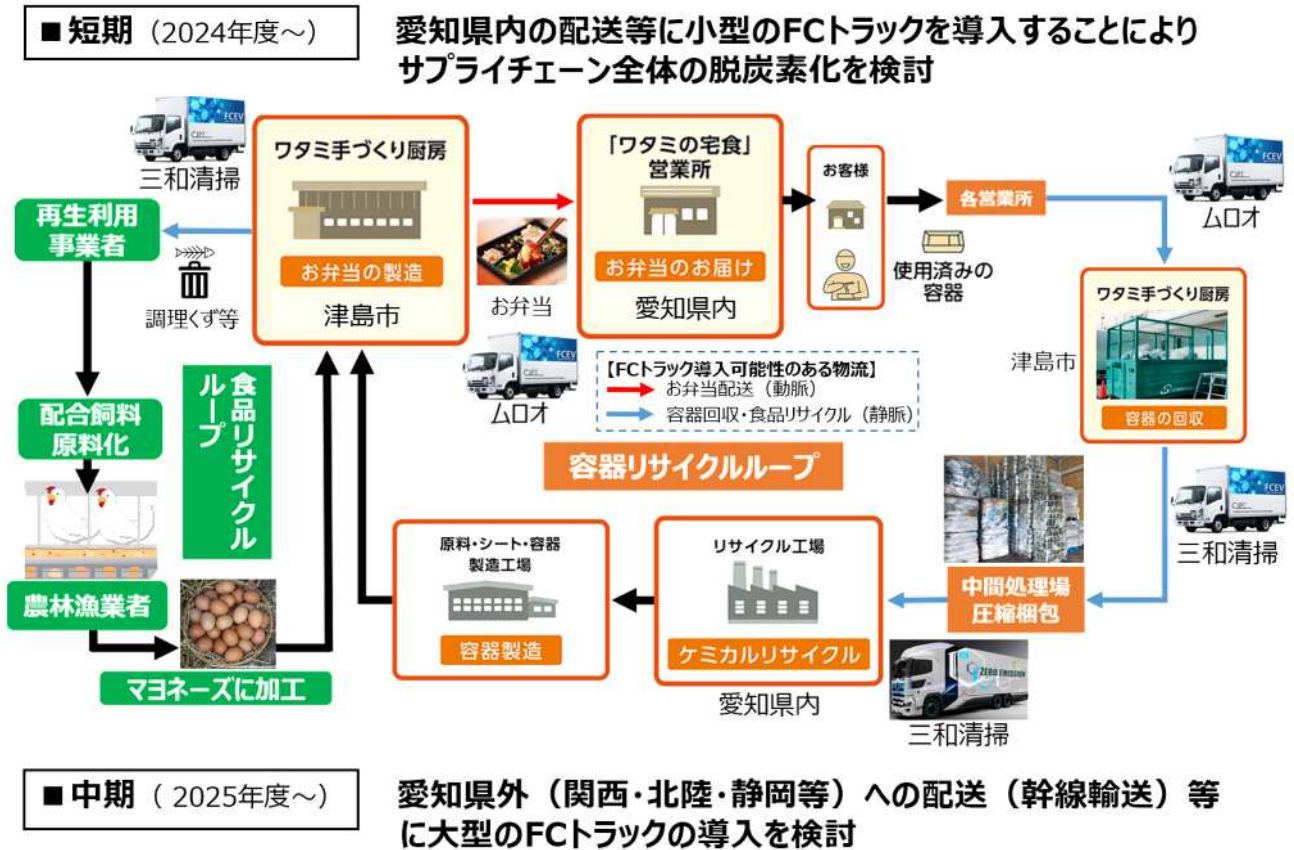


参考 物流脱炭素化プロジェクトについて

愛知県は、2021年度から全国の民間企業等を対象に、革新的・独創的な脱炭素プロジェクトのアイデアを募集し、「あいちカーボンニュートラル戦略会議」において事業化の優先度が高いアイデアを選定し、カーボンニュートラルの実現に向けた新たなプロジェクトの創出を目指す取組を行っている。

2023年12月14日（木）に開催した戦略会議において、ワタミ株式会社、株式会社ムロオ及び三和清掃株式会社から提案のあった、配送等にFCトラックを活用する「荷主と運輸事業者等の連携による物流脱炭素化プロジェクト」が選定された。県は、このプロジェクトに対し、2024年度から県内の荷主や輸送事業者等が参画する推進会議の設置や、FCトラックを活用した物流脱炭素化のモデルスキームを構築することなどで、県内の物流脱炭素化に向けて、幅広く横展開できるよう支援している。

1 プロジェクトの概要



(1) 背景

愛知県における運輸部門のCO₂排出量は、産業部門に次いで2番目に大きい割合である。この中で、貨物自動車等の商用車によるCO₂排出量の割合は約40%であり、物流の脱炭素化が課題である。また、FCトラック本体や水素燃料の価格が高価であることや、効率的な水素ステーションでの充填といった課題もあり、FCトラックの導入が進んでいない。

(2) 内容

ワタミ株式会社の宅食事業は、津島市の工場で、再生可能エネルギー電気 100%でお弁当を製造するとともに、容器や調理くず等をリサイクルする取組を実施している。しかしながら、お弁当の配送（動脈）、使用済み容器・調理くずの回収等（静脈）の物流部分は脱炭素化できていない。サプライチェーン全体をより環境配慮型にするために、動脈・静脈の物流にFCトラックを先行導入するとともに、物流脱炭素化モデルスキームを構築し、県内の物流に幅広く横展開する。あわせて、効率的な水素供給の方策についても検討する。

(3) 提案企業の主な役割

役割	会社名
プロジェクトの総括（荷主：宅食事業の展開）	ワタミ株式会社
FCトラックの導入検討（輸送事業者：主に動脈を担当）	株式会社ムロオ
FCトラックの導入検討（輸送事業者：主に静脈を担当）	三和清掃株式会社

2 支援の概要

[物流脱炭素化プロジェクト推進費(令和6年度予算：34,696千円)]

(1) 「あいち物流脱炭素化推進会議」の設置

FCトラックによる物流脱炭素化を県内に横展開するため、荷主、輸送事業者等に参画を呼び掛け、推進会議を設置する。また、ビジョン策定や県内事業者向けの普及啓発を実施する。

(2) モデルスキームの構築

FCとディーゼル・EV・合成燃料等の他燃料種と比較し、CO2削減効果や効率性等の観点から検証する。また、水素供給について、水素ステーションを新規設置する場合と、既存水素ステーションを利用する場合等の比較・検証を実施する。これらの検証を踏まえて、県内の荷主・輸送事業者等に横展開できるモデルスキーム（運送ルート・水素充填スキーム）を構築する。

(3) FCトラックの導入需要の掘り起こし、とりまとめ

省エネ法に基づく特定荷主、特定輸送事業者※等に対して、ヒアリング調査を実施し、FCトラック導入に関する意向や支障事例等の調査を実施する。また、荷主に対して物流脱炭素化の必要性を訴求するため、業種ごとにサプライチェーン全体の物流部分のCO2排出量について傾向分析を実施する。

※ エネルギー使用の合理化等に関する法律（省エネ法）では、特定荷主・特定輸送事業者に対して、非化石転換に関する中長期計画（2030年度が目標年）及び定期報告の提出が義務化されている。

[物流脱炭素化プロジェクト推進費(令和7年度予算案：43,964千円)]

(1) あいち物流脱炭素化推進会議運営支援

推進会議の準備・運営支援、提案企業等との定例会開催、試乗会の開催、ヒアリング等の実施、構築した物流脱炭素化モデルやビジョン等のPR等を実施する。

(2) FC小型トラック実証事業

今年度検討している提案企業のFC小型トラックのモデルスキームにおいて、最も効率的にFCトラックを運用できるルート・水素充填スキームで、実際のFC小型トラックを用いた実証運行を実施する。実証運行により、時間ロスやCO2削減効果等の情報を整理するとともに、ドライバビリティ等の運用面のデータ取りを実施する。

(3) FC大型トラック物流脱炭素化モデルスキーム構築業務

提案企業の県外への幹線輸送（大型トラック）に関するディーゼル・EV・合成燃料とFCについて、CO2削減効果、効率性（コスト・時間）等の観点から比較・検証するとともに、他の荷主、輸送事業者等に横展開できるモデルスキーム（運送ルート・水素充填スキーム）を構築する。

(4) 水素供給FS調査事業

今年度に検討したFS調査結果を踏まえて、最も効率的な水素供給方法の具体化に向けて、実際の事業主体探索や適地選定等の検討を実施する。

(5) 新規サプライチェーンモデルスキーム構築事業

今年度事業において、荷主・輸送事業者等にヒアリングを実施し、FCトラック等の導入意向や物流の状況を把握している。その中でも提案企業とは別の物流の形であり、かつ他企業のモデルとなるFCトラック導入意向のある企業等について、モデルスキーム構築を支援し、県内の荷主・輸送事業者等に横展開を図る。